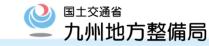
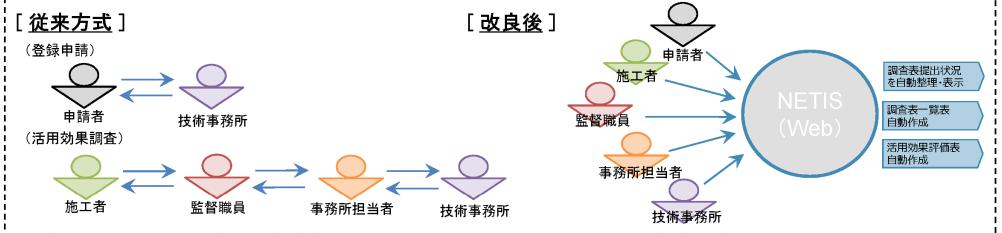
受注者向け 新技術情報提供システム説明会

NETISシステム操作マニュアルについて

R3~ NETIS改良の概要



- ◆NETIS改良を実施し、登録申請・活用効果調査表作成に関する事務を迅速化・省力化。
 - 登録申請・活用効果調査に関する事務手続きを、NETIS上(オンライン)で完結できるようNETISを改良。
 - 各作業に要する日数短縮・事務手続き軽減により、新技術活用を促進。
 - R4.4からの運用開始を予定。運用後、デジタル化されたデータの利活用を進める。



- 〇様式に記入、メール等にて幾度もやりとり ---> OWeb上で記入、次記載者に自動通知
- 〇入力すべき内容が分からない、修正多数 ---> 〇入力アシスト機能(QAチャットボット、簡易な文章チェック)
 - 〇不備、空欄等の自動確認機能
 - 〇様式の簡素化、様式間重複記入箇所の自動転記
- 〇調査表状況把握、集計、確認が困難 ---> 〇計画書、調査表の提出状況を自動的に表形式整理



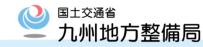
NETIS	・アブストラクトが空欄です。・品質の向上に関する根拠資料が登録されていません。	
		ОК

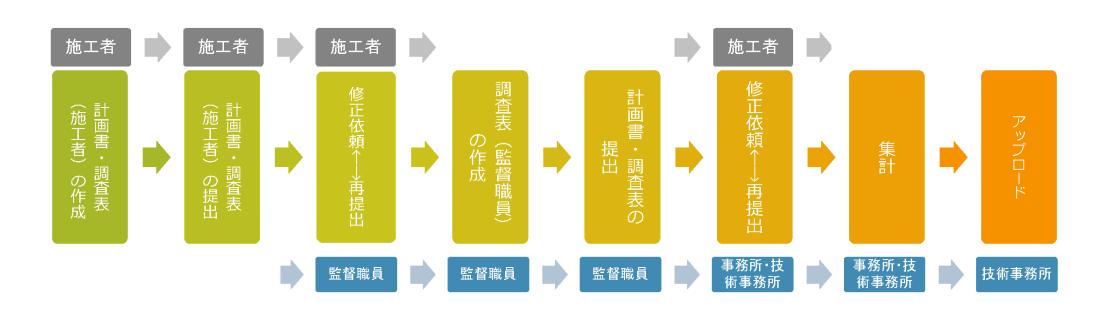
不備、空欄等を自動確認通知

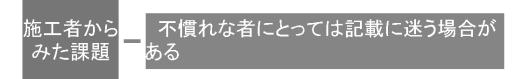
	工事/業務 の別	計画書の提出	調査表の提出 (発注者)	調査表の提出 (施工者)	調査表の種別
	▼/▲		▼/▲	▼/▲	▼/▲
	工事	<u>提出</u>	未提出	未提出	未評価
	工事	<u>提出</u>	<u>提出</u>	<u>提出</u>	未評価
_	工事	<u>提出</u>	未提出	<u>提出</u>	未評価
	工事	提出	<u>提出</u>	<u>提出</u>	未評価

提出状況(進捗状況)を自動整理

活用効果調査表作成 改良前と課題

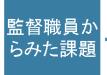






発注・技術 事務所から みた課題 提出が集中した場合は、調査表確認や集 計管理が困難

修正依頼←→再提出には何人もの関係者 を経由する必要があり、状況把握が困難



不慣れな者にとっては記載に迷う場合があ る

未記入や誤記入に対しての確認・修正・再 提出に手間と時間を要する 関係者共通 の課題 関係者間の受け渡しファイルは、NETISに 取り込まないと見ることが出来ない

確認・修正が不十分な場合、評価段階(数年後)になってから修正必要となる場合も



オンライン申請機能



- ✓施工者·監督職員がWEB画面上で直接入力·登録
- ✓都度必要だった受け渡しデータ取り込み不要
- ✓ 次入力者に自動通知
- ✓全てデジタルデータとなり、様々な利活用の可能性

入力アシスト機能

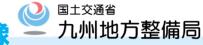


- ✓未記入・未添付に注意喚起
- ✓ 評価点とコメントの不整合に注意喚起
- ✓ チャットボットにより、質問・自動回答 etc.

提出状況管理機能

工事/業務 の別	計画書の提出	調査表の提出 (発注者)	調査表の提出 (施工者)	調査表の種別
▼/▲		▼/▲	▼/▲	▼/▲
工事	提出	未提出	未提出	未評価
工事	提出	提出	提出	未評価
工事	提出	未提出	提出	未評価
工事	提出	提出	提出	未評価

- ✓ID·PW付与時点で管理表を自動作成
- ✓進行状況をリアルタイム表示



活用効果調査オンライン入力登録システムの構築

施工者及び監督職員がWEB画面上にて調査表(計画書含む)を入力し、直接登録できる機能を構築。



活用効果調査オンライン入力登録システム画面

活用等の型は、要選択!

活用効果調査表作成 改良内容(詳細2)



活用効果調査表記入内容のチェック機能の構築

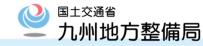
未入力箇所や、評価内容の不整合箇所を注意喚起するチェック機能を構築。(技術事務所の内容 確認作業を省略)

従来技	術より劣る	同等	従来技術。	より優れる		
01	02	03	04	05		
●当該技術に関連	しない項目である				NETIS	コメントを入力して下さい。
コメント 全角100	00文字以内。					0



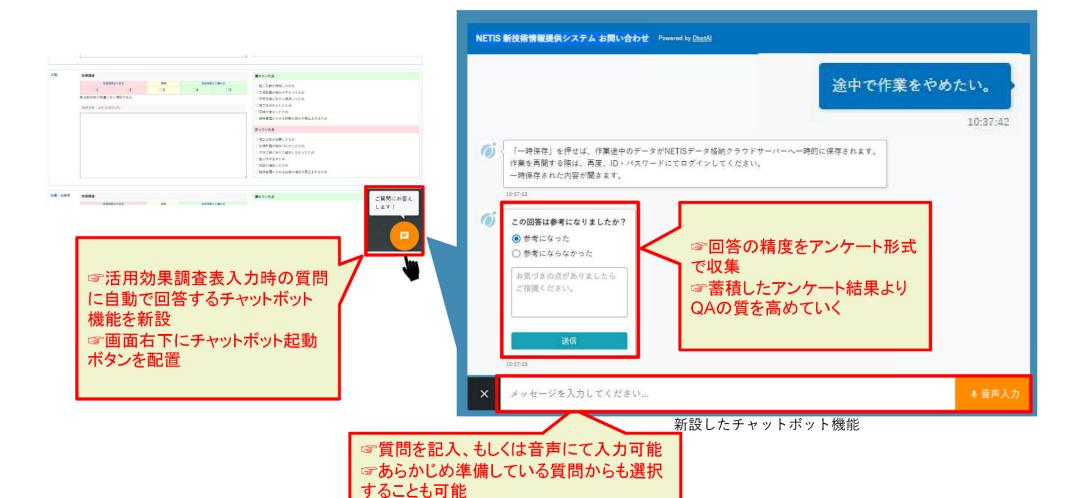
記入内容チェック機能イメージ

活用効果調査表作成 改良内容(詳細3)

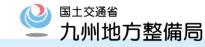


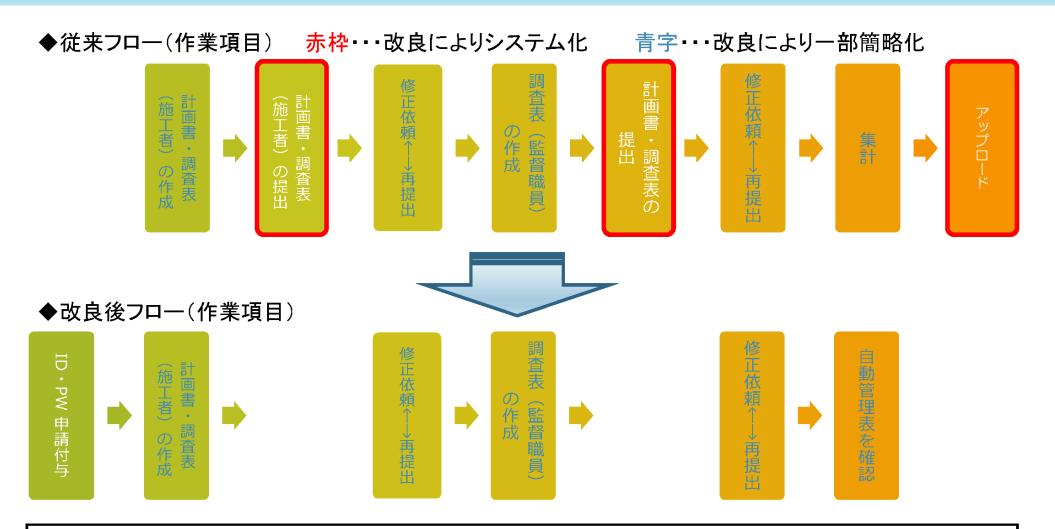
チャットボット機能構築

申請時の質問にロボットが自動で回答する機能を構築。



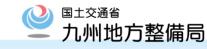
活用効果調査 改良により期待される効果

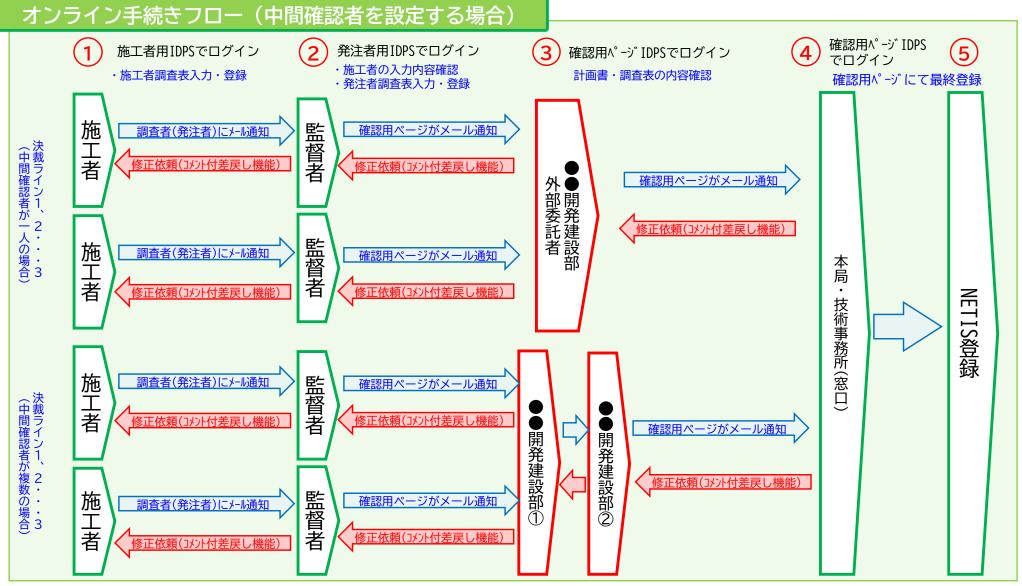




- ✔ 作業の削減・簡略化により、全関係者の生産性を向上。(官側の集計作業に効果大)
- ✓ 技術の活用状況の早期把握や調査表の精度向上により、事後評価の早期実施や 適切な評価の実施に寄与。
- ✔ 全てデジタルデータとなることで、様々なデータ利活用が可能となる。

活用効果調査表の改良 <R4.7.28より運用開始>





【R4.7.28~ 本運用】

- 1. 事務所監督員が調査表入力後、所定の処理。
- 2. 中間確認者(開発建設部、外部委託者)or最終確認者(本局、技術事務所)に確認用メールが自動通知。※地整の設定による。
- 3. 中間確認者は、確認用ページにIDPWログインし内容チェック〔一次確認〕。内容に問題なければシステムにて確認済登録。最終確認者へ自動通知。
- 4. 最終確認者が確認用ページにて内容確認後、システムに登録〔最終確認〕
- 5. 差し戻しは、確認用ページにて、各段階で可能。差し戻し先は前決裁者。
- 6. 決裁ルートは地整毎に複数設定出来る仕様とする。

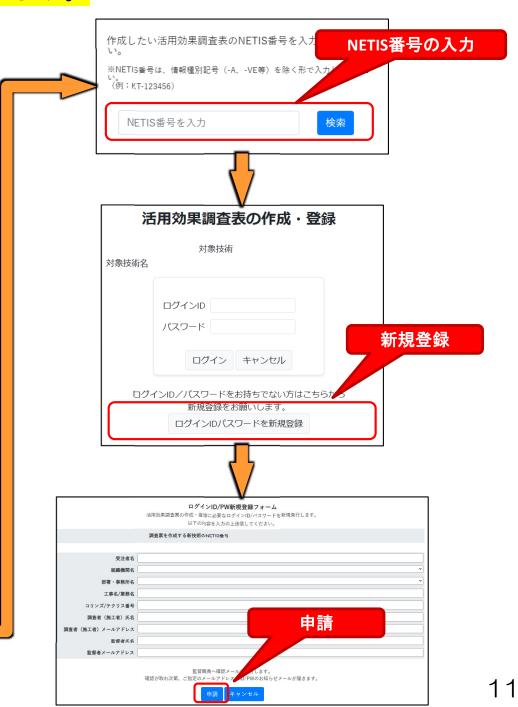


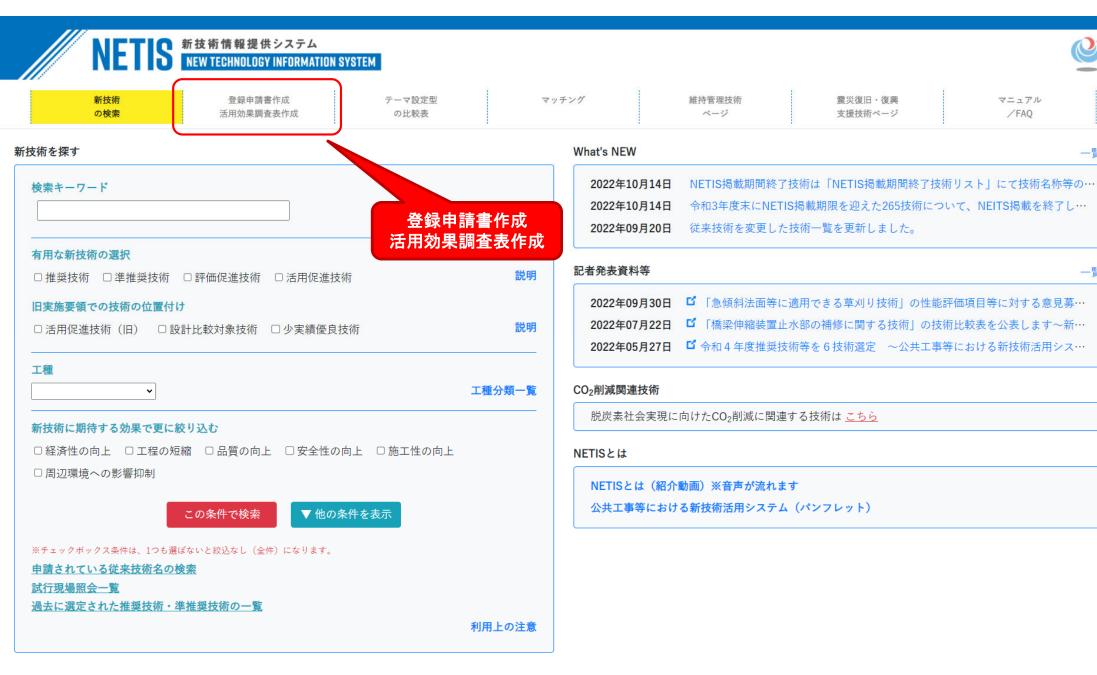
オンライン活用効果調査表作成の実施フロー 調査者(施工者) 調査者(発注者) 九州技術事務所 通知(自動メール) ID・パスワード申請 ID・パスワード申請情報確認 **ID・**パスワート の 1工事・1技術毎に申請する 発行 (自動メール) **ID・**パスワード受領 ID・パスワード承認、発行 【発注者指定型】 計画書確認 · 登録 計画書作成・一時保存 ・「活用等の型」を忘れずに選択 ・計画書「記入完了」に☑ VEの場合 連絡(口頭等) 通知(自動メール) 【活用前】 登録 記入内容確認 計画書 計画書作成·登録 計画書確認 **NETIS** 工者選定型】 登録 ・「活用等の型」を忘れずに選択 ・計画書「記入完了」に☑ 修正なし 修正あり VEの場合 ! 通知(自動メール) 修正依頼受領 修正依頼 登録 記入内容確認 実施報告書、調査表 (施工者用) 通知(自動メール) 受注者記入内容確認※ 作成·登録 発注者は受注者の記入内容を確認して ・実施報告書「記入完了」に図 ください。 修正なし 修正あり ・調査表 「記入完了」に☑ 通知(自動メール) 修正依頼受領 修正依頼 【活用後】 通知(自動メール) 実施報告書 記入内容確認 調査表(発注者用)作成・登録 活用調査表 $(A \cdot VROA)$ ・調査表「記入完了」に☑ 修正あり 修正なし 通知(自動) 【VEについて】 修正依頼 修正依頼受領 ・実施報告書、活用効果調査表の作成・登録 は不要です。 **NETIS** 登録

ID/パスワードの申請について

ID・パスワードは1工事・1技術毎に必要となります。







マニュアル

/FAQ

一覧へ

一覧へ



新技術 の検索

登録申請書作成 活用効果調査表作成 テーマ設定型 の比較表

マッチング

維持管理技術 ページ

震災復旧・復興 支援技術ページ マニュアル /FAO

登録申請書作成(申請情報)

活用効果調査表作成(評価情報)

活用効果調査表作成 (評価情報)

NETIS(申請情報)への登録申請に必要な書類は以下のとおりです。ただし、必ず申請しようとしている地方整備局の技術事務所のホームページを確認して下さい。

WEB申請書



次の様式が作成できます。

- 様式1:申請書
- 様式2:技術概要説明資料

- 申請書(様式-1)は必ずA3で両面印刷紙、二つ折りにして提出してください。表裏2枚をのり付け したもの、表裏一枚ずつのままのもの等で提出された場合は、受理できません。
- 申請書(様式-1)には必ず代表者印を押してください。
- 誤記等の記載ミスも虚偽記載として扱われる場合があるため、慎重に記入してください。
- 申請資料作成にあたっては、「申請マニュアル」「NETIS機能操作マニュアル(オンライン新技 術登録申請) を確認してから行ってください。 ※マニュアルは適時更新されますのでご注意ください。
- NETISに登録される工種・分類については、事前に「工種分類一覧」より確認することが出来ま す。

過去に紙で申請・登録した技術の内容を修正する場合は、こちら

※港湾技術の申請書については港湾NETISページから作成してください

詳細説明資料





次の様式がダウンロードできます。

- 様式3:詳細説明資料(x|sxファイル)
- 様式4:比較表(xlsxファイル)

登録済みの申請情報を変更・修正する場合は様式 | -15を作成して ください。

■ 様式 | -15 申請情報の変更・更新申請書



新技術情報提供システム NEW TECHNOLOGY INFORMATION SYSTEM



新技術 の検索 登録申請書作成 活用効果調査表作成 テーマ設定型 の比較表

マッチング

維持管理技術 ページ 震災復旧・復興 支援技術ページ マニュアル /FAQ

登録申請書作成 (申請情報)

活用効果調査表作成(評価情報)

事後評価に必要な申請書等です。「公共工事等における新技術活用システム」運用マニュアル等を確認して下さい。

WEB活用効果調査表



次の様式が作成できます。

- 新技術活用計画書·実施報告書
- 活用効果調查表(発注者用)
- 活用効果調査表(施工者用)

作成

- 活用効果調査表の作成にあたっては、「NETIS機能操作マニュアル(オンライン活用効果調査表作成)」を確認してから行ってください。 ※マニュアルは適時更新されますのでご注意ください。
- WEB活用効果調査表のID・パスワードは1技術毎に必要となります。一つの工事の中で複数の新技術を活用する場合、技術毎にID・パスワードの発行申請を行ってください。

旧システムで作成した活用効果調査表の内容を修正する場合は、こちら

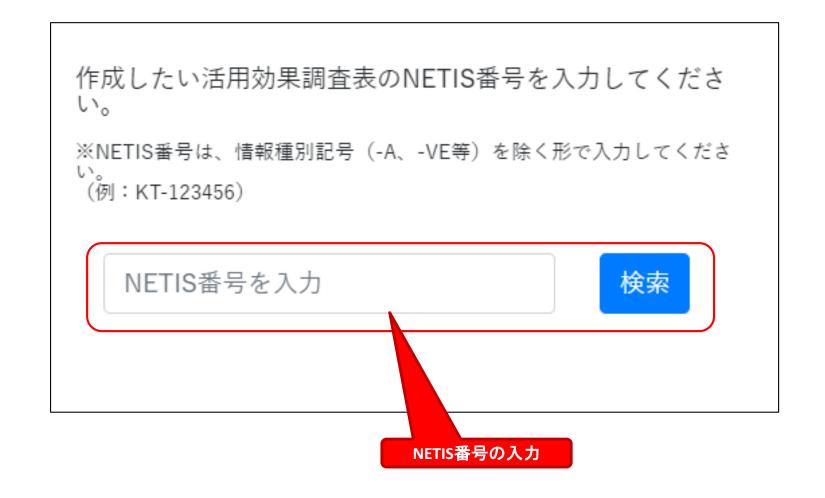
※港湾技術の活用効果調査表については港湾NETISページから作成してください

試行申請



次の様式がダウンロードできます。

- 様式 I-7: 試行申請書(docxファイル)
- 様式 | -8:試行希望調書(x|sxファイル)
- 様式Ⅲ-5:試行調査現場適応性回答書(docxファイル)
- 様式Ⅲ-9:試行調査工事等の試行調査計画原案(docxファイル)
- 様式Ⅲ-11:試行調査計画表(xlsxファイル)
- 様式Ⅲ-12:試行調査報告書(docxファイル)
- 様式Ⅲ-13: 試行調査表 (xlsxファイル)



例: QS-210068

活用効果調査表の作成・登録

対象技術 QS-210068 対象技術名 パワーブレンダー工法 (ICT施工)

ログインID		
パスワード		
ログイン	キャンセル	

ログインID/パスワードをお持ちでない方はこちらから <u>新規登録をお願いします。</u>

ログインIDパスワードを新規登録

新規登録

ログインID/PW新規登録フォーム

活用効果調査票の作成・登録に必要なログインID/パスワードを新規発行します。 以下の内容を入力の上送信してください。

調査票を作成する新技術のNETIS番号 QS-210068

(技術活用提案日	
	受注者名	
	組織機関名	
	部署・事務所名	
	工事名/業務名	
	コリンズ/テクリス番号	
	調査者(施工者)氏名	
	調査者(施工者)メールアドレス	
	監督者氏名	
	監督者メールアドレス	

監督職員へ確認メールを送付します。 確認が取れ次第、ご指定のメールアドレスへID/PWのお知らせメールが届きます。

申請

キャンセル

ログインID/PW新規登録フォーム

活用効果調査票の作成・登録に必要なログインID/パスワードを新規発行します。 以下の内容を入力の上送信してください。

調査票を作成する新技術のNETIS番号 QS-210068

技術活用提案日	2022/11/15
受注者名	施工会社名 受注者名は、施工会社の名称
組織機関名	九州地方整備局
部署・事務所名	九州技術事務所
工事名/業務名	九州技術事務所 ダミー工事
コリンズ/テクリス番号	0123456
調査者(施工者)氏名	00 00
調査者(施工者)メールアドレス	******@*********
監督者氏名	00 00
監督者メールアドレス	****** @ ******** **

監督職員へ確認メールを送付します。

確認が取れ次第、ご指定のメールアドレスへID/PWのお知らせメールが届きます。



ID/パスワード発行のお知らせメール

N

2022/10/11 (火) 11:35

NETIS システム <admin@netis-online.jp>

【NETIS】活用効果調査表入力用ID/PW発行のお知らせ:QS-210068 九州技術事務所 ダミー工事4

宛先

新技術活用工事

ご担当者様

NETIS活用効果調査表入力用の ID/PWが発行されましたのでお知らせします。

以下の ID/PWで、活用効果調査表入力用 Web サイトへログインの上、活用効果調査表の入力をお願いたします。 ※ID/PW はログインに必要となりますので、紛失しないよう保管をお願いたします。

[ID/PW]

施工者用 ID aupsnbzc PW 123456

ID・パスワード

【新技術活用工事情報】

調査票を作成する新技術の NETIS 番号 QS-210068

受注者名 施工会社名

工事名 九州技術事務所 ダミー工事

工事のコリンズ番号 0123456

監督職員氏名

•• ••

調査者氏名 〇〇 〇〇

調査者メールアドレス *****@*******.**

【活用効果調査表入力用 Web サイト(施工者用)】

活用効果調査表入力用 Web サイトへ

入力サイトへ移動

※このメールは送信専用のメールアドレスからお送りしています。 ご返信いただいても回答はできませんので、ご了承ください。

※このメールにお心当たりがない場合は、誠に恐れ入りますが、 破棄していただきますようお願いいたします。

※NETISへの入力内容、その他運用に関するお問い合わせはこちら

https://www.netis.mlit.go.jp/netis/publink/puboffices

※システム障害等に関するお問い合わせはこちら

https://www11.webcas.net/form/pub/netis/online inquiry form

発信元: NETIS -新技術情報提供システム-

Copyright 2021, New Technology Information System. All Rights Reserved.

活用効果調査表の作成・登録

対象技術 QS-210068

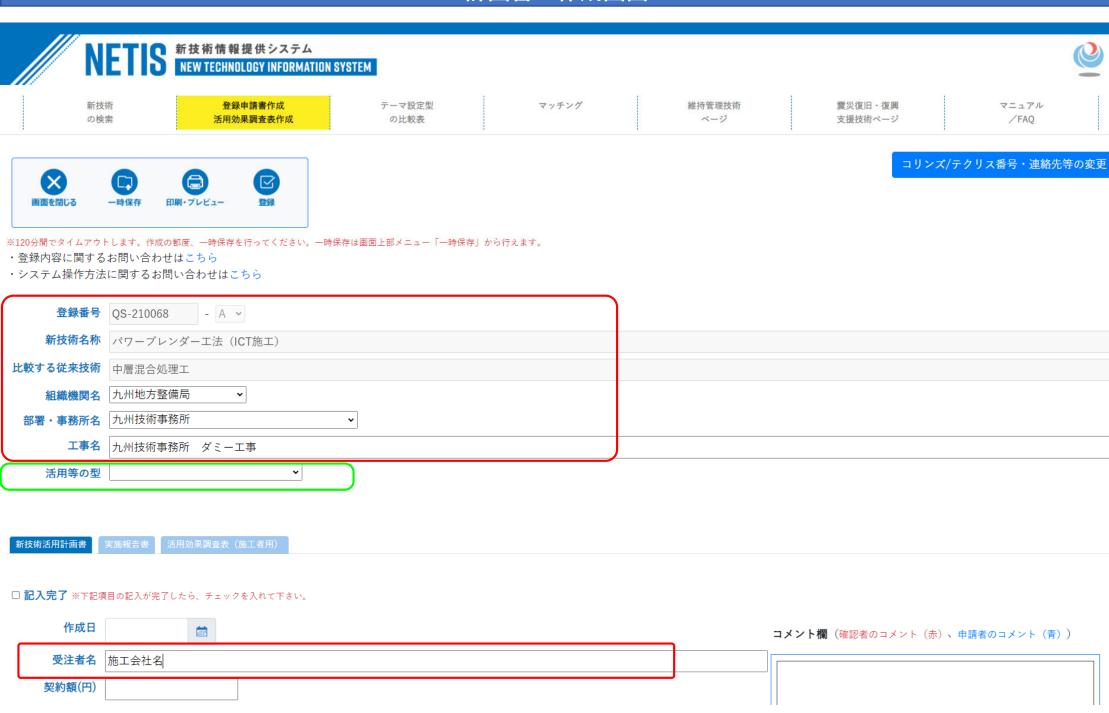
対象技術名 パワーブレンダー工法 (ICT施工)



ログインID/パスワードをお持ちでない方はこちらから 新規登録をお願いします。

ログインIDパスワードを新規登録

計画書の作成画面



活用等の型の選択について

活用等の型の選択について

試行申請型(発注者指定)

試行申請型(契約後提案)

試行申請型

発注者指定型

発注者指定型 (選択肢提示型)

施工者選定型(総合評価技術提案)

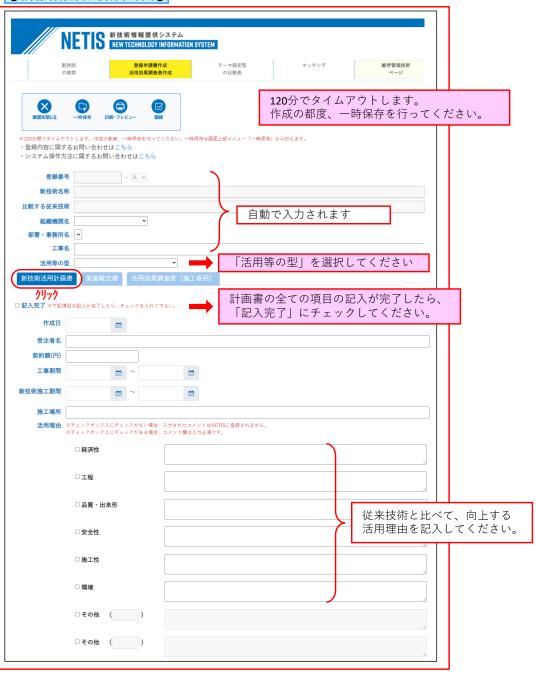
施工者選定型(契約後提案)

フィールド提供型

テーマ設定型(技術公募)

活用前 新技術活用計画書における留意事項

【新技術活用計画書】



活用効果調査表システムの改良について



VE技術で活用効果調査表を作成する場合は、新技術活用計画書の記入のみとなりました。

NETISシステムの改良に伴い、VE技術において実施報告書のタブが非表示になりました。 今まで実施報告書の概要欄の記入についてご協力頂きありがとうございました。

【改良前】 【改良後】 NETTS 新技術情報提供システム 新技術情報提供システム NEW TECHNOLOGY INFORMATION SYSTEM NEW TECHNOLOGY INFORMATION SYSTEM 維持管理技術 活用効果調査表作成 の比較表 画面を閉じる 施工者へ 印刷・プレビュー ※120分間でタイムアウトします。作成の郵底 一時保存を行ってください。一時保存は画面上部メニュー「一時保存」から行えます。 ※120分間でタイムアウトします。作成の都度、一時保存を行ってください。一時保存は画面上部メニュー「一時保存」から行えます 登録内容に関するお問い合わせはこちら ・登録内容に関するお問い合わせはこちら ・システム操作方法に関するお問い合わせはこちら ・システム操作方法に関するお問い合わせはこちら 選択タブ - VE v •新技術活用計画書 新技術名称 新技術名称 比較する従来技術 比較する従来技術 •活用効果調査表(発注者用) 部署・事務所名・ 部署・事務所名 工事名 丁車夕 選択タブ •新技術活用計画書 □ 記入完了 ※下記項目の記入が完了したら、チェックを入れて下さい

<mark>【活用後】</mark>「A・VR」 実施報告書作成における留意事項

								7
///	ar 44.42	. ke en 40 44						
	ETS 新技術 NEW TE	i情報提供システム ECHNOLOGY INFORMATION SY	STEM					
新技	-41	登録申請書作成	テーマ設定型	1	マッチング		維持管理技術	
和奴の検		活用効果調査表作成	アーマ設定型の比較表		マッテンク		推行官項技術 ページ	
					でタイム			
画面を閉じる	一時保存 印刷・ブレビ	ュー 登録		作成の	り都度、-	一時保存	を行って	ください。
※120分間でタイムアウ	トします。作成の都度、一郎	寺保存を行ってください。一時保存	字は画面上部メニュー「一時	保存」から行えま	す。			
	お問い合わせはこちら に関するお問い合わせ							
登録番号	-	Α Ψ						
新技術名称								
比較する従来技術								
組織機関名		~						
部署・事務所名	~							
工事名								
活用等の型		v						

- ・施工 (活用) 概要資料は、構造が分かる図面等があれば添付してください。
- ※NETIS情報等の添付は必要ありません。

- ・「A・VR」技術の活用後は、実施報告書 と調査表の作成・登録になります。
- ・登録ボタンを押すと、調査表が閲覧できなくなりますので、事前に印刷・プレビューボタンからPDF等に印刷しておくことをお勧めします。

【実施報告書】 「VE」技術は、実施報告書の登録が不要です。 新技術活用計画書(実施報告書) 「A·VR」技術は、実施報告書の全ての項目の記入が完了し クリック
□ 記入完了 ※下記項目の記入が完了したら、チェックを入れて下さい。■ たら、「記入完了」にチェックしてください。 施工概要 内容 全角1000文字以内。 工事全体の内容を記入してください。 誤字チェック 凡例:チェック対象文字,修正候補 誤字・脱字チェックの結果をここに表示します 対象数量 全角127文字以内。 新技術の対象数量を記入してください。 (NETIS申請情報の「活用効果の根拠」を参考に単位等を合わせ てください。) 誤字チェック 凡例:<mark>チェック対象文字</mark>,修正候補 誤字・脱字チェックの結果をここに表示します 新技術使用箇所 全角127文字以内。 誤字チェック 凡例:チェック対象文字,修正候補 誤字・脱字チェックの結果をここに表示します 「A·VR │ : 施工 (活用) 概要資料 ※活用概要データを添付してください。 活用後に記入してく ファイルをドラッグ&ドロップし てください。または ださい。 ファイルを選択 選択されていません 現場施工条件 各全角1000文字以内。 ●現場条件 ●周辺状況(病院、学校、鉄塔の有無等)●自然環境(騒音、振動、水質等) 誤字チェック 凡例:<mark>チェック対象文字</mark>、「誤字チェック 凡例:<mark>チェック対象文字</mark>、「誤字チェック 凡例:<mark>チェック対象文字</mark>、 誤字・脱字チェックの結果をここに表示 誤字・脱字チェックの結果をここに表示 誤字・脱字チェックの結果をここに表示 障害 施工上で重大な障害や問題が生じましたか。 ○無 ○有 チェックを外す 障害の内容 全角127文字以内。 誤字チェック 凡例:チェック対象文字,修正候補 誤字・脱字チェックの結果をここに表示します

作業環境 ○陸上作業 ○水上作業 ○地下作業 ○水中作業 ○高所作業 チェックを外す

調査表作成における留意事項(1/2)

				【活用	丝】	TA · V	'R	新技術活
						IA V	IV]	לון און און און
技術活用計	画書 実施報	活用 活用	効果調査表	(施工者用)				
要領	_		クリッ	1				
ただし、記 その場合は、		、と判断した調査項目 日は必要ありません。	また、コメン	該技術に関連しない項目でお ト欄にその理由を必ず記入し も通り)		iv.		
大幅に劣る		日等 使れる	大幅に使れる	0207.	左記のチェ	ェックの目安	を参考に定	性的
1	2	3 4	5			_ ^ / 「		12.43
【ポイント】 活用した新 いるのか、	】 技術が、従来技術に比べて どの程度劣っているのかを	「優れる」か「同等」か 上表を目安に判断してい	・「劣る」かを判断し ただくことで、チェ	してから、どの程度優れて レックしやすくなります。				
必要に応じて	、対末調査の運出やご て定量的なコメントを 用効果調査表 (施工者用)	お願いします。		が整合を図って下さい。		全ての項目の	記入が完了	
会社名(所属) 記入者氏名				' [「記入完」	了」にチェッ	クしてくだ	さい。
記入者氏名 連絡先(TEL)	3			, [了」にチェッ	クしてくだ	さい。
記入者氏名	3			an L II Water V	いた点			
記入者氏名 直絡先(TEL)	効果調査			物より優れる				さい。 経済性 の評価】
記入者氏名 直絡先(TEL)	効果調査 従来技術より	第6 同等	従来技	物より使れる	いた点 成経費・製品単価・補助材 作人員が減少したため 设置が減少したため		【紹	
記入者氏名 連絡先(TEL)	効果調査 従来技術より	第6 同等○2 3○3 はしない項目である	従来技	物より優れる機体(方)(方)(方)(方)(方)(方)(方)(方)(方)(方)(方)(方)(方)(方)(方)(方)(方)(方)(方)(方)(方)(方)(方)(方)(方)(方)(方)(方)(方)(方)(方)(方)(方)(方)(方)(方)(方)(方)(方)(方)(方)(方)(方)(方)(方)(方)(方)(方)(方)(方)(方)(方)(方)(方)(方)(方)(方)(方)(方)(方)(方)(方)(方)(方)(方)(方)(方)(方)(方)(方)(方)(方)(方)(方)(方)(方)(方)(方)(方)(方)(方)(方)(方)(方)(方)(方)(方)(方)(方)(方)(方)(方)(方)(方)(方)(方)(方)(方)(方)(方)(方)(方)(方)(方)(方)(方)(方)(方)(方)(方)(方)(方)(方)(方)(方)(方)(方)(方)(方)(方)(方)(方)(方)(方)(方)(方)(方)(方)(方)(方)(方)(方)(方)(方)(方)(方)(方)(方)(方)(方)(方)(方)(方)(方)(方)(方)(方)(方)(方)(方)(方)(方)(方)(方)(方)(方)(方)(方)(方)(方)(方)(方)(方)(方)(方)(方)(方)(方)<td>いた点 成絃音・製品単価・補助材 条人員が減少したため</td><td>科費が減少したため</td><td>【箱</td><td>経済性の評価】</td>	いた点 成絃音・製品単価・補助材 条人員が減少したため	科費が減少したため	【箱	経済性の評価】
記入者氏名 連絡先(TEL)	効果調査 従来技術より ○1 ●当該技術に関連	第6 同等○2 3○3 はしない項目である	従来技	##より優れる	いた点 成経費・製品単価・補助材 素人員が減少したため 设置が減少したため に日数が短縮したため	料費が減少したため	【紀 ・定 願い	経済性 の評価】 E性的 5 段階評価を いします。
記入者氏名 連絡先(TEL)	効果調査 従来技術より ○1 ●当該技術に関連	第6 同等○2 3○3 はしない項目である	従来技	歳より優れる位数作が仮は施二施二維持	いた点 成純音・製品単価・補助材 差人員が減少したため 全人員が減少したため に目数が短幅したため に間が想定数量より多かっ	料費が減少したため	【 給 ・定 願し	経済性 の評価】 E性的 5 段階評価を いします。 1 メントは必ず記入
記入者氏名 連絡先(TEL)	効果調査 従来技術より ○1 ●当該技術に関連	第6 同等○2 3○3 はしない項目である	従来技	# 上り張れる	いた点 成成管・製品単価・補助材 ま人員が減少したため 没者が減少したため に日数が短縮したため 電が想定数量より多かっ か言程豊の減少が見込まれ いた点 成成音・製品単価・補助材	科費が減少したため たため るため	【紹 ・定 願い ・= てく	経済性 の評価】 E性的 5 段階評価を いします。 ロメントは必ず記入 にださい。(「当該
記入者氏名 連絡先(TEL)	効果調査 従来技術より ○1 ●当該技術に関連	第6 同等○2 3○3 はしない項目である	従来技	# より要れる	いた点 株成経費・製品単価・補助材 未入員が減少したため 没看が減少したため 日数が短輪したため こ量が超定数量より多かつ 今管理書の減少が見込まれ いた点	科費が減少したため たため るため	【 紹 ・定願い ・ こ で く	経済性 の評価】 E性的 5 段階評価を いします。 コメントは必ず記入 ださい。(「当該 E関連しない項目で
記入者氏名 連絡先(TEL)	効果調査 従来技術より ○1 ●当該技術に関連	第6 同等○2 3○3 はしない項目である	従来技	# 上り張れる	いた点 成経費・製品単価・補助材 を人員が減少したため な目数が短輪したため に目数が短輪したため に置が超定数量より多かつ でいた点 が、大きないでは、 にいた点 の の の の の の の の の の の の の	料費が減少したため たため るため 料費が増加したため	【 紹 ・ 庭 い ・ て ぐ に る 」	経済性 の評価】 E性的 5 段階評価を いします。 ロメントは必ず記入 にださい。(「当該
記入者氏名 連絡先(TEL)	効果調査 従来技術より ○1 ●当該技術に関連	第6 同等○2 3○3 はしない項目である	従来技	# 上り張れる	いた点 成減費・製品単価・補助材 を入員が減少したため 会員が減少したため こ日数が想理報したため こ量が想定数量より多かっ の大力を が最近では があた。 では では では では では では では では では では	料費が減少したため たため るため 料費が増加したため	【 紹 ・ 庭 い ・ て ぐ に る 」	経済性 の評価】 E性的 5 段階評価を いします。 コメントは必ず記入 ださい。(「当該 関連しない項目で 場合もその理由を
	効果調査 従来技術より ○1 ●当該技術に関連	第6 同等○2 3○3 はしない項目である	従来技	# 上り張れる	いた点 成経費・製品単価・補助材 を入員が減少したため 定日数が短縮したため 田が想定数量より多かっ でいた点 成経費・製品単価・補助材 を入員が増加したため の日数が延長したため の日数が延長したため に関が固定数量よりやなか	料費が減少したため たため るため 料費が増加したため	【 紹 ・ 庭 い ・ て ぐ に る 」	経済性 の評価】 E性的 5 段階評価を いします。 コメントは必ず記入 ださい。(「当該 関連しない項目で 場合もその理由を
記入者氏名 連絡先(TEL)	効果調査 役表技術より ・1 ・当該技術に関す コメント 全会!	第6	従来校 ○4	# 上り張れる	いた点 成経費・製品単価・補助材 を入員が減少したため 定日数が短縮したため 田が想定数量より多かっ でいた点 成経費・製品単価・補助材 を入員が増加したため の日数が延長したため の日数が延長したため に関が固定数量よりやなか	料費が減少したため たため るため 料費が増加したため	【 紹 ・ 庭 い ・ て ぐ に る 」	経済性 の評価】 E性的 5 段階評価を いします。 コメントは必ず記入 ださい。(「当該 関連しない項目で 場合もその理由を
記入者氏名 連絡先(TEL)	効果調査 役表技術より ・1 ・当該技術に関す コメント 全会!	男 る	従来校 ○4	# 上り張れる	いた点 成経費・製品単価・補助材 を入員が減少したため 定日数が短縮したため 田が想定数量より多かっ でいた点 成経費・製品単価・補助材 を入員が増加したため の日数が延長したため の日数が延長したため に関が固定数量よりやなか	料費が減少したため たため るため 料費が増加したため	【 紹 ・ 庭 い ・ て ぐ に る 」	経済性 の評価】 E性的 5 段階評価を いします。 コメントは必ず記入 ださい。(「当該 関連しない項目で 場合もその理由を
記入者氏名 連絡先(TEL)	効果調査 役表技術より ・1 ・当該技術に関す コメント 全会!	第6	従来校 ○4	# 上り張れる	いた点 成経費・製品単価・補助材 を入員が減少したため 定日数が短縮したため 田が想定数量より多かっ でいた点 成経費・製品単価・補助材 を入員が増加したため の日数が延長したため の日数が延長したため に関が固定数量よりやなか	料費が減少したため たため るため 料費が増加したため	【 紹 ・ 庭 い ・ て ぐ に る 」	経済性 の評価】 E性的 5 段階評価を いします。 コメントは必ず記入 ださい。(「当該 関連しない項目で 場合もその理由を



- ・定性的5段階評価をお 願いします。
- コメントは必ず記入し てください。(「当該技 術に関連しない項目であ る | 場合もその理由をコ メントしてください。)



【品質・出来形の評価】

- ・定性的5段階評価をお 願いします。
- ・コメントは必ず記入し てください。(「当該技 術に関連しない項目であ る | 場合もその理由をコ メントしてください。)



【安全性の評価】

- ・定性的5段階評価をお 願いします。
- ・コメントは必ず記入し てください。(「当該技 術に関連しない項目であ る | 場合もその理由をコ メントしてください。)



【施工性の評価】

- ・定性的5段階評価をお 願いします。
- コメントは必ず記入し てください。(「当該技 術に関連しない項目であ る | 場合もその理由をコ メントしてください。)

<mark>【活用後】</mark> 「A・VR」 新技術活用調査表作成における留意事項(2/2)



【環境の評価】

- ・定性的5段階評価をお願いします。
- ・コメントは必ず記入してください。(「当該技術に関連しない項目である」場合もその理由をコメントしてください。)

上記項目の他に評価事項がある場合は本項目にて評価を行って下さい。	優れていた点、	劣っていた点はコメント概	へ具体的に記載して下さい。



【その他】

前述の6項目以外で新たな「調査項目」が必要と記入者が判断した場合は、その他の項目に記入してください



確認者用コメント欄について

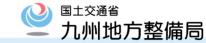
活用効果調査表(施工者用)

会社名(所属) 記入者氏名 連絡先(TEL)						コメント欄(確認者のコメント(赤)、申請者のコメント(青)
経済性	効果調査				優れていた点	となっていますので記入してく ださい。
	従来技術より劣る	同等	従来技術。	より優れる	□機械経費・製品単価・補助材料費	
	01 02	03	04	05	が減少したため	
	●当該技術に関連	重しない	項目であ	న	□作業人員が減少したため □仮設費が減少したため	
	コメント 全角1	1000文字。	以内。		□施工日数が短縮したため	
				Î	施工量が想定数量より多かったため	
					□ 維持管理費の減少が見込まれるため	
					劣っていた点	
					□機械経費・製品単価・補助材料費 が増加したため	
					□作業人員が増加したため	コメントを入力してください
					□仮設費が増加したため	
					□施工日数が延長したため	
				11	□施工量が想定数量より少なかった ため	
	誤字チェック	凡例:	チェックす	· 才象文字,	□維持管理費の増加が見込まれるた め	
	修正候補					
	誤字・脱字チェ 示します	ックの	結果をこ	こに表		
						ファイルを選択 選択されていません
工程	効果調査				優れていた点	ZIVE TO CONCIO

調査表等の右側にあるコメント欄は、 不備を有する調査表に対し、修正依頼 を実施する際に、確認者が修正内容等 を記入する為に使用します。

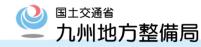
修正等がない場合は、記入の必要はありません。

Ⅰ:『調査項目の効果調査が「1」~「5」』のコメント事例

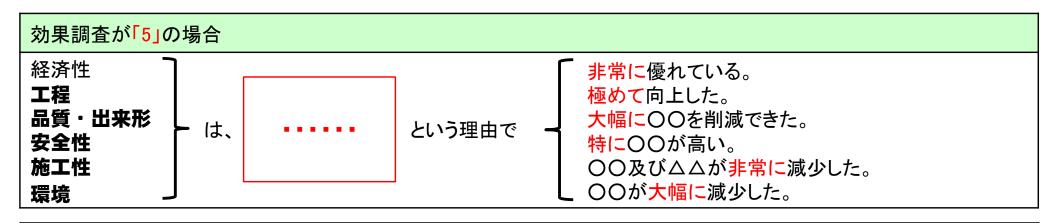


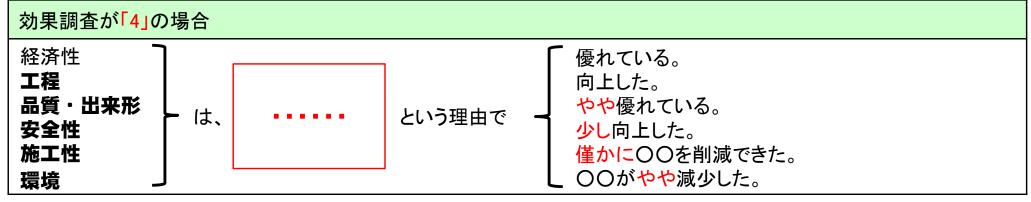


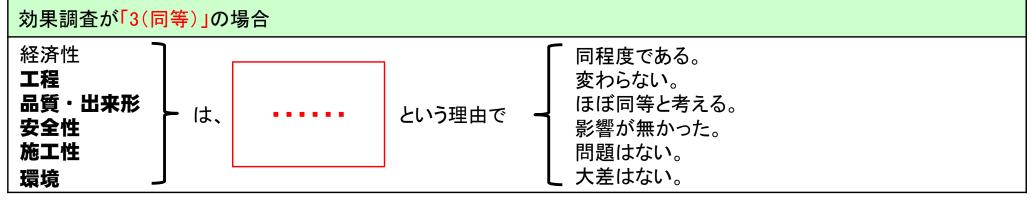
Ⅰ:『調査項目の効果調査が「1」~「5」』のコメント事例



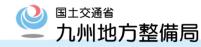
・コメントは、評価に至った理由である・・・・・・・を具体的に記入し、文末は、下記の文例を参考にして下さい。



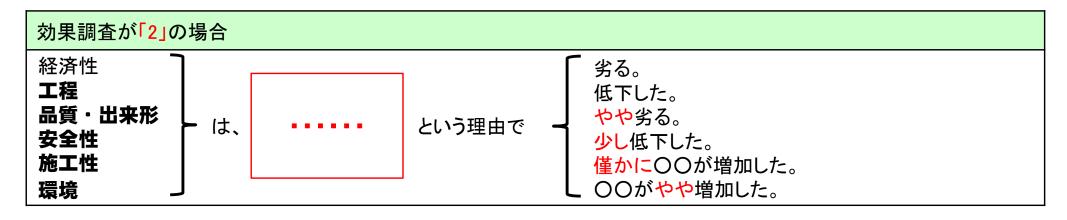


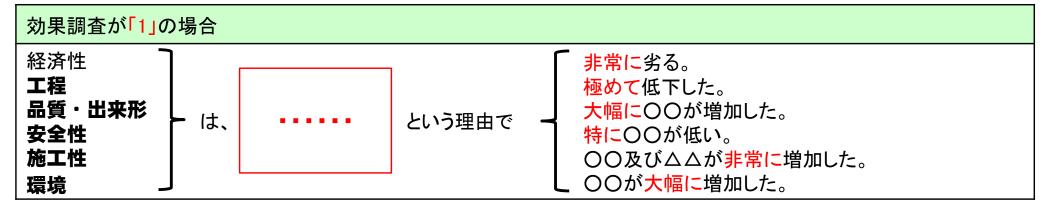


Ⅰ:『調査項目の効果調査が「1」~「5」』のコメント事例



・コメントは、評価に至った理由である・・・・・・・を具体的に記入し、文末は、下記の文例を参考にして下さい。





Ⅱ:『調査項目のコメント』を特に重視すべき具体的な事例



以下のような事例では、修正依頼やヒアリングをお願いする場合があります。

◆調査の視点では、(優れていた点:2)>(劣っていた点:1)であるが、効果調査は「2」でありコメントもマイナス評価となっている。



コメントが簡素であるために、 調査の視点の重みが判断で きません。より具体的なコメン トをお願いします。

例:作業人員と施工日数は削減できたものの、機械経費が非常に高くなったため、 総合的には従来技術と比較して、経済性は劣る。(○)

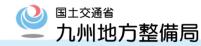
◆調査の視点では、優れていた点に多く(4箇所)のチェックが付いているが、効果調査は「4」となっている



例:仮設の減少により現場での施工が減少し、さらに機械化により作業員の作業が容易になったことから、従来技術と比較して施工性は<u>やや</u>優れている。(○)

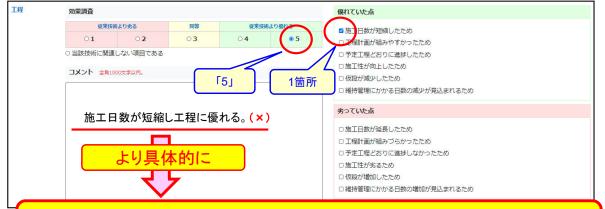
多くの項目で優れているが、 それぞれの項目の重みは僅かであるために、総合的には 「4」となったことが伝わるよう なコメントをお願いします。

Ⅱ:『調査項目のコメント』を特に重視すべき具体的な事例



以下のような事例では、修正依頼やヒアリングをお願いする場合があります。

◆調査の視点では、優れていた点のチェックが1箇所であるが、効果調査は「5」となっている



優れていた点が一つで、効果 調査が「5」となった具体的な コメントをお願いします。

例:工程は、地盤改良に要する日数が、当初8日間予定していた日程が4日間 (1/2)になり、施工日数を短縮できるという理由で非常に優れていた。(〇)

◆調査の視点では、劣っていた点のチェックが1箇所であるが、効果調査は「1」となっている



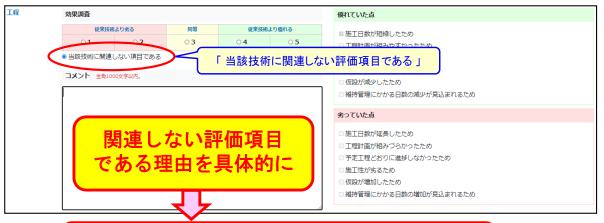
劣っていた点が一つで効果 調査が「1」となった具体的な コメントをお願いします。

例:現場打ちコンクリートであり、管理項目・頻度が増加し、施工不良等による 品質の低下が懸念されたため、品質・出来形に非常に劣っていた。(○)



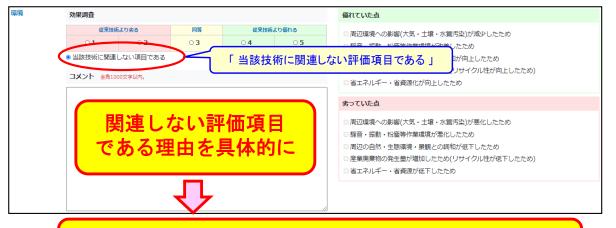
以下のような事例では、修正依頼やヒアリングをお願いする場合があります。

◆「当該技術に関連しない評価項目である」にチェックがあるが、そのコメントが未記入となっている。



コメントが未記入であるため に、関連しない評価項目で ある理由がわかりません。 関連しない理由の具体的な コメントをお願いします。

例:現場における施工日数に影響を及ぼさないという理由で関連しない評価項目である。

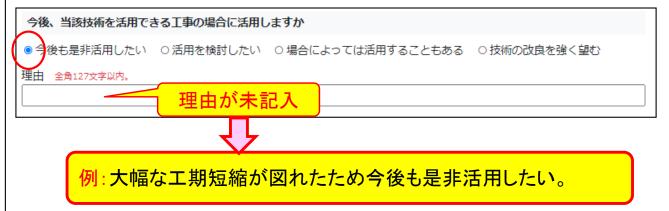


例:材質自体環境に影響するものではなく、施工についても 騒音・振動等は発生しない為。 コメントが未記入であるため に、関連しない評価項目で ある理由がわかりません。 関連しない理由の具体的な コメントをお願いします。



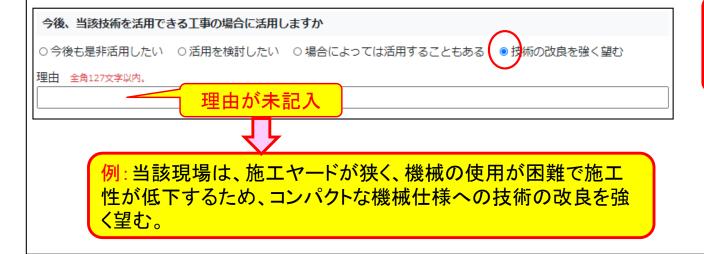
理由を必ず記入してください。

◆「今後も是非活用したい」にチェックがあるが、その理由が未記入となっている。



「今後も是非活用したい」理由を必ず記入してください。

◆「技術の改良を強く望む」にチェックがあるが、その理由が未記入となっている。



「技術の改良を強く望む」理由を必ず記入してください。

V:『調査項目の効果調査が「当該技術に関連しない」』のコメント事例



効果調査が「当該技術に関連しない評価項目」の場合

経済性 【コメント】

材料費が高価で鉄筋への装着労務が必要となるなど直接的な費用は増加しているが、仕上り後の補修費の有無に対する比較は困難である。

今回、施工対象面積が小さく、従来技術との比較において対象としない。

工程 【コメント】

現場における施工性や施工日数に影響を及ぼさないという理由で関連しない評価項目である。

工程は、施工日数に影響を及ぼさないという理由で関連しない評価項目である。

今回、施工面積が小さく、従来技術との比較において対象としない。

工程は調査の視点に該当がない。

工程は、システムの性質上関係しない。

工程に影響する技術ではないため評価できない。

品質・出来形 【コメント】

丁張り杭の品質・出来形に影響を及ぼさないという理由で関連しない評価項目である。

品質・出来形は該当しない評価項目である。

補修材であり舗装工の品質・出来形に影響を及ぼさないという理由で関連しない評価項目である。

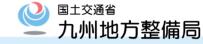
品質・出来形は調査の視点に該当がない。

品質・出来形は、コンクリート構造物の弱点となりやすい打ち継ぎ目の強度低下を防ぐものであるが、今回の施工での確認はできない。

今回、新技術は、現況トンネルの形状把握で用いた為、品質・出来形に関連しない評価項目である。

機材の形態上、当該技術に関連しない評価項目である。

◆NETISシステム操作マニュアル (イントラ 内部向け)◆









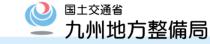
活用計画書・報告書・活用効果調査票の作成

- ■作成方法
- 令和4年4月1日から作成方法を変更致します。
- 今後は、NETIS (新技術情報提供システム)で入力・登録を行うことができ、各担当者はオンライン上で内容を確認出来ます。 (移行スケジュール等)→活用効果調査オンライン作成・提出の周知パンフ
- ※令和4年4月1日以前に計画書を提出済みである場合も、令和4年8月1日以降に新技術が完了し、 活用効果調査表を作成する場合は、新システムによる再登録が必要です。
- ■作成システム → 《NETIS (新技術情報提供システム) 》※外部リンク
- ■作成マニュアル→操作マニュアル / 施工者用 / 発注者(監督者)用※部外秘
- ■新技術活用計画書・実施報告書の書き方について(計画書作成段階で施工概要~作業環境について記載してください。(九地整版))
- ■活用効果調査表のコメント事例集 (※令和3年3月1日現在)
- I: 『調査項目の効果調査が「1」~「5」』のコメント事例
- II: 『調査項目のコメント』を特に重視すべき具体的な事例
 - 『調査項目の効果調査が「当該技術に関連しない」』のコメント事例
- Ⅳ: 『今後、該当技術を活用できる工事の場合に活用しますか。』の理由事例

関連事項

■新技術の請負工事成績評定要領の運用等 (※リンク/イントラ企画部・施工企画課)

◆NETISシステム操作マニュアル (九州技術事務所HP)◆





HOME

文字サイズ 小 中 大 サイトマップ
〇 サイト内検索
校索

ホーム 建設技術 新技術情報/NETIS (新技術ポータルサイト) 活用(活用計画書・報告書および活用効果顕音表)

ホーム > 建設技術 > 新技術情報/NETIS (新技術情報/NETIS (新技術情報/NETIS (新技術情報/NETIS (新技術情報/NETIS (新技術ポータル サイト) | サイト) | お知らせ | 基本事項 (NETISシステム・実施要領 etc.) | お役立ち情報室 | 九州で登録した新技術 | 工法抽出 | その他 | NETIS登録のICT関連技術一覧 | モデル施工 (除草技術) の実施 | 活用 計画者・報告者および活用 効果原金表 | NETISへの登録申請(申請様式etc.) | 技術開発相談窓口のご案内 | 技術開発・調査

活用(活用計画書・報告書および活用効果調査表)

(

調査表等

防災技術

※令和4年4月1日から作成方法が変更になりました。

建設技術

新システムでは入力・登録を行うことができ、各担当者がオンライン上で内容を確認できます。

人材育成

(移行スケジュール等) →活用効果調査オンライン作成・提出の周知パンフレット 【作成サイト】

◆作成システム 《NETIS (新技術情報提供システム)》(※外部リンク)

【マニュアル】※作業時にはマニュアルをご参考下さい。

◆マニュアル → 操作マニュアル / 施工者用

※令和4年4月1日以前に計画書を提出済みである場合も、令和4年8月1日以降に新技術が完了し、 活用効果調査表を作成する場合は、新システムによる再登録が必要です。

◆調査表等の作成

※下記に掲載している「計画書・調査表」のイメージ画は旧エクセル版の様式となっています。
「計画書・調査表」の記載事項については基本的に変更がありませんので、「計画書・調査表」の作成にあたっては、現在のWEB版での画面に読み替えて本資料をご覧ください。

九州防災・ 火山技術センター

新技術情報/NETIS

■地域連携・支援

【参考】作成に当たっては下記作成例をご参考ください。

- 新技術活用計画書・実施報告書の書き方について
- 新技術活用調査表のコメント事例集 (令和3年3月1日時点)

I: 『調査項目の効果調査が「1」~「5」』のコメント事例

Ⅱ: 『調査項目のコメント』を特に重視すべき具体的な事例

『調査項目の効果調査が「当該技術に関連しない」』のコメント事例

Ⅳ: 『今後、該当技術を活用できる工事の場合に活用しますか。』の理由事例

■ 入札·契約情報

NETISへの登録申請

■ 施設見学 (休止中)

◆3月末以前の旧システムで作成した調査表(Zipファイル)の提出は下記フローのとおりです。

新技術活用計画書・実施報告書及び活用効果調査表の提出フロー

九州技術事務所ホームページ (http://www.gsr.mlit.go.jp/kyugi/index.html)



·新技術情報/NETIS



活用(活用計画書・報告書 および活用効果調査表)



- 施工者用マニュアル
- ・コメント事例集

NETISシステム操作マニュアル まとめ



- 1.NETISの改良
 - ・活用効果調査表をWEB画面上で直接入力・登録できます。 (オンライン化)
- 2.ID、パスワードの申請
 - •ID、パスワードは1工事、1技術毎に必要となります。
- 3.新技術活用計画書、実施報告書および活用効果調査表の作成について
- 3-1.保存について
 - •120分でタイムアウトするため一時保存を行ってください。
- 3-2.計画書の作成について(活用前)
 - 活用等の型を忘れずに選択してください。
 - 計画書を作成し、「記入完了」に☑して登録してください。
- 3-3. 「A」「VR」技術について(活用後)
 - 実施報告書を作成し、「記入完了」に☑してください。
 - すべての項目のコメントを記入してください。(当該技術に関連しない場合も必要)
 - ・活用効果調査表を作成し、「記入完了」に☑して登録してください。
- 3-4.「VE」技術について(活用後)
 - 実施報告書、活用効果調査表の作成・登録は不要です。



本日の説明会に関して、アンケートのご協力をお願いいたします。

スマートフォン・タブレットで、下のQRコードを読み取ってください。

アンケートは、1~2分程度で終わります。

